

# 入学試験問題の講評 英語 ①

(文学部、経済学部、法学部、経営学部、理工学部、知能情報学部)

## ●出題のねらいと傾向

本試験では、文部科学省の高等学校学習指導要領に記載されている①言語や文化に対する理解、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、③情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝える英語力を受験生が身につけているかを重視して、出題しています。

上記①に関しては、英語圏、非英語圏を問わず、世界で起こっている地球温暖化などの環境問題、貧困など発展途上国における問題、ジェンダーに関する問題など、現代の多様な文化・社会に関する問題を扱い、英語で理解し考える力があるかを問います。②については、英語のコミュニケーションにおいて、相手の意図や主張をくみ取り的確なやり取りができるか、またその内容を正確に言い換えることができる力があるかを問います。③に関しては、まとまった考えを理解し、論理的、効果的に説明する力を問います。

大問は4題で1番は600語から800語程度の文章に関する総合問題、2番は文法問題、3番はコミュニケーションに関する問題、4番はパラグラフの問題という構成になっています。

出題の傾向としては、本年度の試験は前年度とほぼ同じといえますが、前年度の試験の結果を考察し、少し内容や表現を変えたために、前年度よりはやや難化したといえるでしょう。

## ●解答内容について

公募制推薦入学試験の第一次選考の結果です。全学部の受験者の平均点は53.5点(100点満点)、合格者の平均点は71.0点(100点満点)でした。英語受験者全体の得点分布は100点満点中51点から60点の層を最大にして、最低点11点、最高点98点できれいなベルカーブを描いています。

学部別では、文学部受験者平均点は54.7点(100点満点)、合格者平均点は70.9点(英語英米文学科は80.2点)、経済学部受験者平均点は54.5点、合格者平均点は75.2点、法学部受験者平均点は53.3点、合格者平均点は72.5点、経営学部受験者平均点は54.5点、合格者平均点は80.1点、理工学部受験者平均点は45.8点、合格者平均点は55.8点、知能情報学部受験者平均点は51.1点、合格者平均点は65.8点でした。

問題別に解答の傾向を見ると、1番の読解問題では、文章の本旨の把握は概ねできていましたが、その背景を類推したり、語句を言い換えたりする問題は難しかったようです。2番の文法問題では正解率は問題によってかなり差がありましたが、今年は正解率が高い問題が多かったようです。3番のコミュニケーションに関する問題では、高い正答率の問題と正解率が低い問題に分かれました。決まり文句を選ぶのではなく、会話の流れをつかんで最適な受け答えを選ぶ必要があります。4番のパラグラフの問題では、前半の文章を選んでパラグラフを完成させる問題の最初の問題の正答率が低かったのですが、他は50パーセントを越えています。語句を入れて文章を完成させる問題は概ねできていました。

## ●アドバイス

**1.文化・社会問題のチェック**：出題のねらいで述べた世界の多様な文化・社会の問題に関心を持ち、新聞、テレビやウェブサイトなどでつねに触れておくことが大切です。たとえば、まずは日本語で知ったニュースもそれが英語でどう表現されているか、海外メディアをチェックすることもインターネットが発達した現在、簡単にできることです。また、英語字幕がついたTEDのプレゼンテーションや、字幕付きのオンラインビデオなど英語を読みながら聞き、発音や口語表現も身につけましょう。

**2.速読の練習**：すばやく情報を得ることが目的の速読は、日本語に訳さず、文を意味のまとまりで区切りながら、意味を取る練習を繰り返すればだんだんと速く読めるようになります。

**3.精読の練習**：文章の意味を正確に理解するためには文法・構文なども知っておかなければなりません。留意点は、作者自身の意見と一般的事実を区別して読むこと、直接述べられていないけれど類推することができるものを意識して読むことです。

## 配点(100)

① 34点    ② 20点    ③ 18点    ④ 28点

※100点満点を、学部・学科の定める配点にしたがって換算します。